

唐丹希望基金「あの日 あの時」

[2] 唐丹サントルチア祭（2011年～2013年の12月13日）

唐丹希望基金代表 高館 千枝子

私は、震災から4ヶ月の月命日2011年7月11日、スウェーデン・ルンド市の訪問先で出会った長谷川（間瀬）恵美さん（桜美林大学准教授）とゼミの学生3人で唐丹中学校を訪問しました。目的は恵美さんの知人、アメリカ出身 キャロル・サックさんが主宰する「リラ・プレカリア」と言う、ハーブ演奏の申し入れをするためです。

この行事は、薄暗くした部屋にローソクを灯し、キャロルさんが奏でるハーブと歌声を聞きながら静かな時を過ごしてもらい、その間にプレーヤーショール（祈りのショール）を肩にかけて上げると言う「心のケア」を目的とした40分程度の行事です。学校長 藤館 茂さんに、この行事の受け入れと訪問日（12月13日）をお願いしたところ「ハーブの演奏は、子供たちの心のケアになってくれるに違いないと思います。子供たちにハーブを聞かせたいと思いますので、是非、いらしてください。」との返事を頂戴しました。このようにして、リラ・プレカリア（祈りのたて琴）とプレーヤーショールを贈る行事を唐丹小・中学校児童・生徒、教職員を対象に行う事になりました。

- ・長谷川 恵美氏の思い：http://www10.plala.or.jp/yasnoli/eec/report_018.pdf
- ・リラ・プレカリアー祈りの堅琴ー：http://www10.plala.or.jp/yasnoli/eec/report_019.pdf
- ・「プレーヤーショール」について：<http://eec-2020.com/tushin/eec/65tushin.pdf>

この行事をスウェーデンの伝統文化“サントルチア祭”に因み「唐丹サントルチア祭」と言い、2011年、2012年、2013年の12月13日に3年間行いました。最後の2013年に、同じ学校で“リラ・プレカリア”を3回も行えた事への感謝の気持ちを、キャロルさん自身の作詞、作曲の歌「**I, YOU, WE**」をハーブに合わせて歌って行事を閉じました。1年目より2年目、2年目より3年目の子供たちの表情が徐々に明るくなっていくのがわかり、心に残る意味深い行事でした。

唐丹の子供達へ贈った歌「**I, YOU, WE**」：<https://www.youtube.com/watch?v=GWBIO7Lgtr8>

この後もキャロルさんとの交流が続きます。キャロルさんから私のもとに「唐丹の子供たちに会いたい」との声が届き、2015年10月、唐丹小学校の学習発表会に参加しました。2016年には唐丹町片川地区の方々との交流会、2017年12月にはクリスマス慰問で「**I, YOU, WE**」を子供たちと初めて一緒に歌いました。2019年3月9日「ハソウ贈呈式」に坂口憲一郎さんと一緒に訪問し、卒業生に「**I, YOU, WE**」に込めたメッセージを送りました。

- ・2019年3月「ハソウ贈呈」：<http://eec-2020.com/tushin/eec/104tushin.pdf>

釜石市は、終戦間際の昭和20年7月14日と8月9日の2度にわたって、アメリカ・イギリス

両海軍の連合国軍艦隊による艦砲射撃を受けて町は壊滅状態になりました。そして、幾度となく襲ってくる津波被害にも遭い、町は何度も壊された悲しい歴史があります。キャロルさんの「平和と鎮魂」の思いと子供たちへ伝えたいメッセージが「**I, YOU, WE**」には込められています。

「唐丹サントルチア祭」は、単なる慰問行事で終わる事なく、唐丹希望基金の中でキャロル・サックさんのメッセージを発信する事ができました。「平和と鎮魂の心」を私達も受け継ぎ、その次の世代にも引き継いでいく事が、“平和の大切さ”を世界へ広める大きな鍵になると思います。

あの時、藤舘 茂校長が、キャロル・サックさんを迎え入れて下さらなければ、そして、単なる“慰問行事”で終わっていたなら、キャロルさんが「唐丹の子供たちに、もう一度会いたい」と私に言ってこなければ、キャロルさんとの交流がこんなに深まる事はありませんでした。それぞれの思いが、不思議な縁で結ばれていたのだと思います。あの時の**“ルチア達”**（2011年、2012年、2013年の小学校1年生）は、2019年4月に**“全員中学生”**になりました。



「I, YOU, WE」の祈り

Carol Sack (September 26, 2014)

2011年から三年間、毎年12月13日に唐丹町を訪れる事が許されました。それには色々な事情が関係しています。その一つが、スウェーデン国の文化です。スウェーデンでは、12月13日に「ルチア祭」を祝います。最も寒くて暗い日に「光」と「希望」の象徴とされるルチア女神の到来を皆で喜びあいます。

三年間「希望」のテーマを持って、他の支援者の方々と共に12月13日に唐丹町を訪ねてきました。毎年たくさんのろうそくの灯の中で、ハープの音色と歌声で祈り、世界中の支援者から祈りと共に編まれたプレーヤー・ショール（祈りのショール）を携えて、静かな祈りの一時を過ごさせて頂きました。

この3年間の行事は、私の64年間の人生の中の最も意味深い、有り難いことでした。唐丹町の皆様にこうして歓迎していただけたことを非常に光栄に思っています。去年（2013年）、三回目に呼ばれて、胸がいっぱいになり、何か自分の感謝の気持ちを唐丹町の皆さんに伝えたくくなりました。何ができるだろうと考え、「そう！小さな歌を誕生させよう！」そして「どういうメッセージを皆さんに伝えようか」と思案しました。15分の間に「I, YOU, WE」の歌詞とメロディーが天から降りて来ました。昨年の唐丹サンタルチアで一度だけ、皆様の前で歌うつもりでした。ところが、ありがたいことに、色々の方々の温かい心と努力のお陰で、驚く事にこのような「素晴らしい本物の歌」になりました。そして、唐丹町の生徒達に歌われる運びとなりました。びっくり！と共に感謝、感謝です。

私はこの歌に、自分の思いを託しました。それは、この世界の生きとし生けるものは神さまに作られているという事です。また、全てが神さまに愛されています。従って、命を与えて下さった親が同じであれば、私達は皆兄弟姉妹です。兄弟姉妹はみなそれぞれ異なる顔や性格をもつように、私たち人間も国が違って、言葉も、文化も、食べ物や着るものなど、違います。（でない、つまらないですね！）けれども、「親」が同じですから皆、神さまの子どもとしての「家族」です。

表面的な違いが見事にたくさんあっても、皆一人一人に共通するところがあると思います：*You need to know you are loved, the same is true for me*（英語版の5節）。私も、あなたも、私達も、皆は「愛されている、尊敬されている、大事にされている」ということに気付いてほしいと思います。

戦争のとき、または、だれかとけんかするとき、そのことを忘れがちになります。「向こうが違う！私だけが正しい！」と考えてしまいます。しかし、それは悲しいことにつながります。

根本的に全ての国、全ての文化、全ての人は大切に愛されています。私も、あなたも、私達も。I, YOU, WE (<https://www.youtube.com/watch?v=GWBIO7Lgtr8>)この小さな歌を通して、誰もが「皆、友達であり、兄弟姉妹であり、家族だ！」と実感してくだされば、私は嬉しく思います。



【 キャロル・サックさん唐丹訪問 -EEC 通信- 】

- 唐丹町片川地区交流会 (2016年6月23日) : <http://eec-2020.com/tushin/eec/72tushin.pdf>
- 唐丹小中学校クリスマス (2016年12月15日) : <http://eec-2020.com/tushin/eec/78tushin.pdf>
- プレヤーホルン贈呈式 (2019年3月9日) : <http://eec-2020.com/tushin/eec/104tushin.pdf>